

花と真心

第二中学校 二年 橘 如花

毎年お盆になると、私たち家族は、新郷の祖母に会いに行く。お盆は、大好きな祖母に会えるので、小さいころから楽しみにしている。

祖母の家には、私の家にはないものがある。それは、仏壇だ。祖母は、仏壇にいつもきれいな花を供えている。

今年のお盆、私が、仏壇に供える「仏飯」の用意を手伝っているとき、

「なおちゃん、仏花変えるから手伝って。」

と祖母に呼ばれた。

「うん……。」

料理が好きな私は、正直、そのまま仏飯を作る手伝いをしていたかった。だから、気のない返事をした。

「玄関に仏花あるから、持ってきてちょうだい。」

私は、しぶしぶ玄関に向かった。しかし、仏花を目にした瞬間、心を奪われた。まっすぐ伸びた茎。大きく開いた大小の花びら。白や紫、黄などの落ち着いた色の調和。朝、妹たちが、きれいと騒いでいたのはこれだったのか……。

私が観察していると、祖母がやってきた。「立派でしょう。」

私は、大きくうなずいた。私の反応に、祖母は笑いながら、

「何で、お花を供えると思う？」

と言った。

「ご先祖様が、喜ぶから？」

私は、ぱっと、思いついた答えを口にした。祖母は、

「それもあるけどね、花のようになれる心でお参りしていることや、亡くなった人への慈しみを、ご先祖に示す、という意味もあるんだよ。」

と教えてくれた。

仏花に、そんな深い意味があるなんて。私は、仏花がさらに神聖なもののように思えた。

「あれ？」

私は、仏花の中にバラがまざっているのを見つけた。

「何で、バラが入ってるの？」

私の中でバラは結婚式などおめでたいときに用いられるイメージがあったので、祖母に質問した。祖母は、

「仏花は、ご先祖様に真心を伝えるものだから、種類はあまり関係ないんだよ。」

と、また、私に教えてくれた。

私は、仏花を供える手伝いをした後に、バラの花言葉について、インターネットで調べてみた。「愛情」や「絆」という意味があるらしい。

家族のぬくもりや、亡くなった人との「絆」を連想させる花言葉は、確かに、ご先祖様に送りたいメッセージだと思った。そして何より、バラは、亡くなった祖父が大好きな花だったそう

だ。そんな花を選んで、供えるなんて……。と、とても感動した。

私は、祖母が話していた「真心」について考えてみた。祖母は、いつも明るい挨拶をしている。私たち孫だけでなく、誰にでもだ。また、誰かの頼みごとに費やしている時間も多い。いつも相手を大切にしている。仏花についても、ご先祖様のことを思っ、祖母なりの「真心」を示すために、立派なものを準備しているのだと思う。花を飾るのは、もちろん、亡くなった人のためだけではない。誕生日や式典のときなどに、お祝いのため、会場を飾ったり、大切な人へ贈ったりすることもある。例えば、会場装飾花。これは、挙式、披露宴の会場をきれいに飾る花のことだ。花やテーブルクロスを組み合わせて、雰囲気を作り変えることもできる。また、花嫁の持つ花束「ブーケ」がある。かつて、プロポーズの際、男性にとつて欠かしてはいけないものだったそう。ブーケは花嫁を守るための魔除けの意味もあるという説もある。これらのことから、花には昔から様々な意味や役割があったことが分かる。私は、やっぱり花はすごいと思った。

私は、花に「真心」を込めることの大切さを学んだ。私はこれから色々なことを経験していくであろう。そして、大切な人も、年を重ねるごとに、増えていくと思う。大切な人の誕生日を祝いたいとき、感謝の気持ちを伝えるとき、

その時々にあつた形で、真心を込めて花を贈る
ことができる素敵な大人になりたい。